

学科名	生物環境化学科																																								
科目名	栄養学																																								
科目区分	専門科目		単位数	2	開講時期	前期																																			
必修・選択の別	選択必修科目																																								
担当者	大貫 宏一郎																																								
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の基質特異性は何に由来するか説明できる。</li> <li>・神経興奮など生体における情報伝達システムを描ける。</li> <li>・バイオセンサにおける信号変換方法を列挙できる。</li> <li>・バイオセンサの長所と短所を説明できる。</li> </ul>																																								
日程と内容	4/8 : 導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。 4/15 : 酵素の触媒能力 4/22 : 酵素タンパク質の立体構造 4/29 : 酵素の基質特異性 5/13 : 酵素の諸性質（最適pH、最適温度など） 5/20 : 酵素反応速度論 5/27 : 酵素に関する総括 6/3 : 生物の感覚、神経細胞 6/10 : 神経興奮、跳躍伝導 6/17 : 味覚の原理 6/24 : 嗅覚の原理 7/1 : その他の化学感覚 7/8 : 視覚の原理 7/15 : バイオセンサーに関する総括 7/22 : 定期試験 7/29 : 全体総括、復習																																								
成績評価基準	<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td><td>70%</td> <td>実技</td><td></td> <td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>臨時試験</td><td>30%</td> <td>部外評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>報告書・レポート</td><td></td> <td>プレゼンテーション</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>課題</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>演習</td><td></td><td></td><td>計</td><td></td><td></td><td>100%</td></tr> </table>						定期試験	70%	実技					臨時試験	30%	部外評価					報告書・レポート		プレゼンテーション					課題							演習			計			100%
定期試験	70%	実技																																							
臨時試験	30%	部外評価																																							
報告書・レポート		プレゼンテーション																																							
課題																																									
演習			計			100%																																			
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。																																								
反省点	酵素と感覚という、難解な現象を説明するために、慎重になり過ぎたようであり、予想に反して全体的な点数が非常に高かった。より高度な内容にすべきだと考えた。																																								
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。																																								
授業評価アンケートに対するコメント	総合が8.6であることは良いことと考えられるが、平易であったためであるとも考えられる。自由記述では、「分かりやすい」「楽しい」が多くみられ、内容を理解してもらい、興味を持つてもらえたことは、成功であったと感じた。来年度はより高度な内容理解に挑戦し、同様の評価を目標としたい。各項目について、4.5程度の項目が多く、来年度も同等以上クオリティを保っていきたいと考えている。また、板書の充実を望む声もあったことより、口頭での説明などを、なるべく板書することを努める予定である。																																								
履修登録者数	76名	定期試験受験者数	72名	合格者数	72名	合格率																																			
						100%																																			